



特集

子ども

文化祭の

これまでと今

## 巻末言 道

### SDGsを本当に実現すべきものと 想っているか

シャンティ国際ボランティア会  
監事 増田 和生(元 自治労大阪本部 特執)

はじめてシャンティの活動を知り、タイのセンサイ村やラオスのリンサン村などで一緒に活動させていただいた時から30年近くになる。支援に行ったというより、現地スタッフの活動姿勢から学ばせてもらった記憶が多い。今ではラオスの少数民族が暮らす地域での複式学級支援、カンボジアのコミュニティラーニングセンターでの識字教室や幼児教育の質の改善を目指した活動など、現地教育行政部局との地道な連携で大きな評価をいただいている。アフガニスタン、ネパール、ミャンマーまた国内外の災害被災地への支援などを含めて、シャンティとしては現在持てる能力を最大限に引き出して活動していると思う。だからこそ、2019年からの活動の押さえ処、方向付けを多くのステークホルダー(利害関係者)の方々と「共通のものとしていく過程」が重視されなければならないと感じる。環境に適応し続けるものだけが生き延び、次の役割を果たすとよく言われる。長く抱え込み、大切にしてきたことがリスクに転化していないかを問い直さ



2013年9月 ラオスで撮影(筆者:後列左から3人目)

なければならない難しい局面だ。

現役時代、私は自治労という労働組合で長く活動してきた。自治労がカンボジア、ラオス、ベトナムで「アジア子どもの家」事業を5年間、シャンティと日本国際ボランティアセンター(JVC)のサポートを受けて取り組み始めたのは1996年だった。自らの利害を中心とする活動から、アジアの子どもたちに目を向け、今でいえばSDGsのような活動を始めたのだと思う。今、労働組合が格差の拡大を食い止め、ディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の獲得へと歩を進められるか。SDGsを受けて、本業のあり方にまで踏み込み始めている企業セクターがある中で、NGO/NPOにとってはチャレンジするしかないところに来ているのだと思う。



代々受け継がれてきた文化や先人によって培われた叡智は、美しい音楽、素晴らしい芸術という形で、人々の心に感動や喜びをもたらしてきました。

「文化」を伝える。言葉にするとなつた一言ですが、実現することは簡単ではありません。困難な状況にある人々が多様性を認め合い、異文化への理解を深めることを目的に、シャンティは「子ども文化祭」を開催してきました。

多くの人々が関わり、子どもたちが紡いできた「文化の継承」の祭典のこれまでと今を、ぜひご覧ください。

Shanti vol.299 CONTENTS

4 特集  
子ども文化祭のこれまでと今

16 世界の絵本を読んでみよう  
「アプサラ(天女)の舞」  
(カンボジア 2005年出版絵本)

18 世界のおやつ旅  
カンボジアのおやつ/ノム・アンソム・チュ

19 世界の現場からAIRMAIL  
From 活動の現場 & 現地の子どもレポート  
▶カンボジア  
▶ラオス

28 シャンティな人たち  
識字教室 ひまわりの会

30 ファインダーをのぞいて  
「難民キャンプの変わったごはん」

31 お知らせ

32 道  
「SDGsを本当に  
実現すべきものと 想っているか」  
監事 増田 和生(元 自治労大阪本部 特執)



今号の表紙  
「難民子ども文化祭」のステージで踊る  
バオ族の子ども。  
2013年撮影  
©Yoshifumi Kawabata

カレン族の衣装を着た子どもたち。  
2018年ヌボ難民キャンプで撮影  
©Yoshifumi Kawabata



1996年にはじまった  
「アジア子ども文化祭」

アジア子ども文化祭は、困難な状況にあっても伝統舞踊や音楽活動に夢と希望をかけて頑張っている子どもたちに、互いの文化を尊重し、平和なアジアの社会づくりに貢献してほしいという願いを込めて開催してきた文化交流イベントです。

第一回目は1996年に、当時シャンティの現地法人であったシーカー・アジア財団が開催しました。以降、シャンティの各国事務所が主催し、2009年からはミャンマー（ビルマ）難民キャンプで「難民子ども文化祭」として受け継がれてきました。

特集

## 子ども文化祭の これまでと今

### 「アジア子ども文化祭」の役割

アジア子ども文化祭には二つの役割があります。一つ目は、各地の伝統文化や芸術を子どもたちへ伝え、自らの文化に誇りを持つと同時に相手の文化を学び、尊重する活動を促進すること。二つ目は、アジア各国の経済的、文化的、社会的な貧困や差別、知的・身体的障害など、様々な困難の中で生きる子どもたちに、教育・芸術・文化活動の機会を届け、力づけることです。

アジア子ども文化祭のテーマである「虹」は、異なる7色が調和し、大空に美しい虹を架けるアジア各地の様々な文化の調和のシンボル。異なる文化、価値観を認め、尊重し合う未来社会の実現と「子ども文化の創造」を象徴しています。

「文化」は、時代を超えて継承される人々の「根」です。この祭典では、それぞれの文化が持っている普遍性と異文化尊重の重要さは観る人に伝わると考えてきました。



特集  
子ども文化祭の  
これまでと今



1996年にはじめて開催された「子ども文化祭」は、シーカー・アジア財団（現在はパートナー団体）のタイ国内の活動地の子どもたちが主役でしたが、ラオスの「アジア子どもの家」の子どもたちも特別参加し、大好評を得ました。翌1997年は、日本とベトナムの子どもたちも参加し、より国際性を明確に打ち出したイベントとなりました。

|                | 開催年             | 開催地                                     | 参加国  |
|----------------|-----------------|---|--|
| シーカー・アジア子ども文化祭 | 1996            | タイ(バンコク)                                | タイ、ラオス   |
| アジア子ども文化祭      | 1997            | タイ(バンコク)                                | タイ、ラオス、日本、ベトナム   |
|                | 1998            | タイ(バンコク)                                | タイ、ラオス、日本、ベトナム、カンボジア                                   |
|                | 1999            | タイ(バンコク)                                | タイ、ラオス、日本、ベトナム、カンボジア                                   |
|                | 2000            | タイ(バンコク)                                | タイ、ラオス、日本、ベトナム、カンボジア                                   |
|                | 2001            | ラオス(ビエンチャン)                             | タイ、ラオス、日本、ベトナム、カンボジア、ミャンマー                             |
|                |                 | タイ(バンコク)                                | タイ、日本  |
|                |                 | 日本(仙台、名古屋)                              | タイ、ラオス、日本、ベトナム、カンボジア、韓国(在日コリア) ※曹洞宗と共催                 |
|                | 2002            | ラオス(ビエンチャン)                             | タイ、ラオス、日本、ベトナム、カンボジア、ミャンマー                             |
|                | 2003            | タイ(バンコク)                                | タイ、ラオス、日本、ベトナム、カンボジア、ミャンマー<ゲスト参加>フィリピン、インドネシア(参加者227人) |
|                | 2004            | タイ(バンコク)                                | タイ、ラオス、ミャンマー   |
|                |                 | 日本(読売ホール)                               | タイ、ラオス、カンボジア、日本、ベトナム、インドネシア                            |
| 2005           | カンボジア(アンコールワット) | アフガニスタン、タイ、ラオス、日本、ベトナム、カンボジア、ミャンマー(ビルマ) |  |
| 2006           | カンボジア           | タイ、ラオス、ベトナム、ミャンマー、カンボジア                 |  |
| 2007           | タイ(バンコク)        | タイ                                      |  |
| 難民子ども文化祭       | 2009            | ウンピラム難民キャンプ                             |  |
|                | 2010            | メラ、ウンピラム、ヌボ難民キャンプ                       |  |
|                | 2011            | メラ、ウンピラム、ヌボ、メラウ・メラマルアン難民キャンプ合同          |  |
|                | 2012            | メラ、ウンピラム、ヌボ、メラウ・メラマルアン難民キャンプ合同          |  |
|                | 2013            | メラ、ウンピラム、ヌボ、メラウ・メラマルアン難民キャンプ合同          |  |
|                | 2014            | メラ、ウンピラム、ヌボ、メラウ・メラマルアン難民キャンプ合同          |  |
|                | 2015            | メラ、メラウ・メラマルアン難民キャンプ合同                   |  |
|                | 2016            | ウンピラム難民キャンプ                             |  |
|                | 2017            | メラ難民キャンプ                                |  |
|                | 2018            | ヌボ難民キャンプ                                |  |



子どもたちが紡いでゆく伝統文化  
これまでの  
「子ども文化祭」





民族混成チームで行った対抗ゲーム



各民族のシンボルを描いた絵



子どもたちの自由読書時間



ミャンマー（ビルマ）難民キャンプには、10を超える民族が暮らしています。しかし、日々の生活の中で互いの文化に触れる機会は限られています。子どもたちは、文化祭に向けて大人から伝統舞踊や歌を教わり、練習する過程で、自分たちのアイデンティティを認識します。ステージで披露する他民族の文化や伝統に触れることで、お互いの文化を尊重することを学びます。私たちシャンティは、異なる文化を知り、受け入れていくことで未来の平和が作れると考えています。

### 「夜の部」 ダンス披露

読み聞かせは、難民キャンプ内の図書館青年ボランティア（TYV）が担当します。TYVの多くが高校生です。学校の合間をぬって図書館に集まり、何度も練習を繰り返します。当日は、息の合った人形劇や大型絵本（ビッグブック）での読み聞かせを子どもたちに披露します。



### 「昼の部」 読み聞かせ

アジア子ども文化祭の理念を受け継いだ難民子ども文化祭は、2009年よりタイ国境のミャンマー（ビルマ）難民キャンプで開催されるようになりました。プログラムは大きく2つに分かれています。レクリエーション（昼の部）とパフォーマンス（夜の部）です。レクリエーション（昼の部）は、民族が入り混じったチームに分かれ、さまざまなアクティビティを行い、みんなで見学します。



## 「難民子ども文化祭」 開催レポート

2018年

# 私たちが「難民子ども文化祭」に参加しました！

10回目の開催となった、2018年「難民子ども文化祭」に出演した各民族の衣装や文化の継承方法について見ていきましょう。

満月の夜のお祭りなどで私たちの文化を知ります。今日のような衣装は、家でお母さんに着せてもらっています。

私は家ではアラカン族の言葉の話しますが、読み書きはできません。学校で友達や先生とはビルマ語で話しています。

チン族はクリスチャンが多く、教会で子どもたちにチン族の歴史や言葉、文化を伝えています。私にとって、この衣装はとても大切です。

モン族に受け継がれたお祭や文化、生活を守るようにしています。家ではモン語を話していますので、子どもたちも自然と覚えています。

今日の衣装は、難民キャンプ内の仕立て屋さんで写真を見せ、縫ってもらいました。特別な日に着る衣装は2着持っています。ムスリムの文化は家や学校で教わっています。

父がバオ族出身で、文化や言葉を習いました。難民キャンプに来てからカレン語を覚えました。



**BURMESE**

ビルマ族



**ARAKAN**

アラカン族



**CHIN**

チン族



**MON**

モン族



**MUSLIM**

ムスリム

※キャンプ内での通称



**PAO**

バオ族



## 文化祭を支える 大人たち

難民キャンプでは現在、ミャンマーへの帰還に向けた動きが進み、将来への不安が増えています。そのような中、難民子ども文化祭は難民キャンプで暮らす大人たちにとっても自分自身の文化的アイデンティティを見つめなおす場となっています。

私の父はバオ族で、母はスゴーカレン族です。バオ族は難民キャンプの中でも人数が少なく、あまり知られていません。バオ族の人は自分の民族のことをあまり話したがりません。中には隠している人もいます。僕はもっとバオの文化を知ってもらえるような活動をしたと思っており、文化祭を通して、私たちの文化を伝えることができるのはとても嬉しいことです。



バオ族の小学校の先生  
クン・アウン・ミョ・タンさん  
(写真右)

私は、図書館青年ボランティアとして、文化祭に参加しました。普段、図書館で見かけない子どもたちも民族の垣根を超えて活動を楽しんでいるのを目にして、この文化祭が果たす大きな役割を実感しました。



図書館ユースボランティア(TYV)  
エ・ダウ・ウェルさん  
(写真右)

全民族の代表が集まり  
平和を願って踊りました。



混合チーム

カレン族にもグループがあり、主なグループにスゴーカレン族とポーカレン族があります。ポーカレン族の民族舞踊ドン・ダンスは、太鼓や銅鑼によるテンポの速い音に合わせて、男女が隊列を組みながら、歌い、飛び跳ねる躍動感のある踊りが特徴です。

カレンの学校に通っている子どもは、授業や教科書でカレン語を勉強します。また、カレン正月のお祭りなどに参加して学ぶことが多いです。家族で着ている衣装は機織りから刺繍まで私の手づくりです。

家では、シャン語を話しているので理解はできますが、読み書きは習ったことがありません。両親はシャン語の読み書きができます。

レポート：広報課 鈴木晶子 写真(一部)：川畑嘉文

## わたしたちの文化を伝えたい「おはなし大会」

1月26日と27日の2日間、ミャンマーで初の「おはなし大会」を開催しました。10年続いた難民子ども文化祭は2018年で終わりを迎えました。シャンティが大切に受け継いできた多様な文化を尊重し認め合う精神は、ミャンマーでの活動に引き継がれます。おはなしを語る上で「ことば」が欠かせません。「ことば」は民族の伝統や尊厳に密接に関わっており、大切な文化です。ミャンマーの子どもたちがおはなし活動を通じて自らの文化に誇りを持ち、異文化を受け入れ、共に生きる社会を築く大人への成長を願っています。(ミャンマー事務所 所長 中原亜紀)



PWOKAREN

ポーカレン族

SGAWKAREN

スゴーカレン族

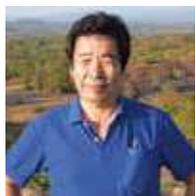
SHAN

シャン族





## 受け継がれる伝統 「難民子ども文化祭」とは



アジア地域ディレクター兼  
ミャンマー(ビルマ)難民事業  
事務所所長  
八木澤克昌

「難民子ども文化祭」の  
原点は、1980年のカン  
ボジアの難民キャンプ。病  
気や飢えで人々がバタバタ  
と死んでいく地獄絵のよ  
うな難民キャンプで、幼い  
孤児たちの踊るカンボジア  
伝統舞踊の「天女の舞」や  
「椰子の実の舞」が絶望の

どん底にいた難民の大人た  
ちに生きる希望を与えてい  
る姿は、今も目に焼き付い  
ています。  
私たちは、難民問題の本質  
は「民族の文化的アイデン  
ティティの喪失の危機」と  
考えていました。こうした  
中で開始したのが、移動図

書館や印刷・出版事業とカ  
ンボジアの伝統舞踊・音楽  
教室。命からがら身一つで  
祖国を逃れて、難民キャン  
プから持ち出すことができ  
るのは、教育によって身に  
つけた知識や手につけた技  
術。大切なのは、自らの心  
にしっかりと刻んだカンボ  
ジア人としての文化的アイ  
デンティティ。それらが祖  
国や第三国等の新しい環境  
の中で生きる勇気と希望に  
なると確信していました。

1996年に開始した  
「アジア子ども文化祭」  
は、「虹と夢の舞」をテー  
マとして開催。タイ、カ  
ンボジア、ラオス、ベトナ  
ム、ミャンマー、アフガニ  
スタン、日本の子どもたち  
が練習を積んだ伝統舞踊  
を披露し合い、交流するこ  
とで互いの理解を深めるこ  
とを目的に開催してきまし  
た。  
「アジア子ども文化祭」と  
「難民子ども文化祭」を通  
じて学んだ事があります。  
自らの民族の文化を大切に  
すれば、異なる民族の文化  
を敬い大切にできるとい  
うこと。難民という民族は  
ない。文化に優劣はない。  
音楽や踊りには国境はな  
い。困難な環境に生きる子  
どもたちほど、教育の機会  
に加えて、芸術や文化が困  
難を乗り越える大きな力に  
なってきたことを学びまし  
た。  
「難民子ども文化祭」も  
ひとつの区切り。今後も、  
教育や図書館活動と共に各  
国の多様な民族の伝統文化  
の継承と民族や文化の違い  
を越えて、平和なアジアの  
世界を創造し続けるシヤン  
ティであることを願ってい  
ます。



# アプサラ(天女) の舞



1

「アプサラ」は天界に住む美しい女性たちのことです。アプサラの彫刻は、アンコールワットなど多くの寺院で見ることができま



「美しい庭に着いたアプサラは咲いている花を見つけました。姉妹たちはアプサラの姫を遊びに誘いました。花を摘むと心を込めて姫に差し出しました。」

5



舞踏が終わりに近づくと、アプサラは両手を合わせてお別れの挨拶をします。カンボジアの舞踏では、踊り子は必ず踊りの最初と最後に観客へ挨拶をします。

6



アプサラの姫と姉妹は、故郷に戻っていきます。両手と左足を上げ、天界へ旅立つ動作をします。これは美しい天界へ飛び立つ瞬間を表しています。アプサラの舞は、やさしく、明るく、強い肉体と心を持つカンボジア人であり、カンボジアの文化です。

7



3

ピンピアット(伝統楽器)の演奏が始まると、ゆっくりとした柔らかい動きをしたアプサラの踊り子たちが登場します。一つ一つの動きに意味があります。



4

「今日は、庭に咲く美しい花を見て、心に幸福を感じます。あなたは花を摘み、祈り、捧げるでしょう。あなたが好み、望むなら、花束を捧げましょう。」

## 解説

「アプサラ(天女の舞)」は、ある日、突然声が出なくなった舞踏家のナロム先生が書かれました。先生は家族で唯一の内戦の生き残りです。還暦を過ぎ、あと何人に舞を伝えていけるかを日々悩んでいました。小学校の先生向けの研修でいつもは他の人が絵本を紹介するのですが、ある研修でナロム先生が突然マイクを引き寄せた次の瞬間、先生の声が会場に響きわたりました。「多くの子どもたちの手に届けるため、先生方に伝えたいという思いが溢れて・・・。思わずマイクを取ったら声が出たんです」と。美しい文化や先祖からの叡智を次の世代に伝えるため、今もシャントイは本の出版を続けています。

世界の現場から

# AIRMAIL

To 日本の皆さん From 活動の現場

このページでは、  
アジアの各国で活動する  
シャンティの様子や  
スタッフを紹介します。

## From Cambodia

カンボジア

シャンティの海外事務所の中で最も歴史が古いカンボジア事務所。2019年に事業が終了する予定のコミュニティラーニングセンター（CLC）の運営や利用状況について、現地の状況をレポートします。



みんなの笑顔をつくる  
世界のおやつ旅

カンボジア・ニーベック集合村  
CLC運営委員 兼 教員  
ブラッ・サモンさんの  
おすすめおやつ

カンボジアのおやつ  
ノム・アンソム・チェ

នំអន្សូមចេក

めでたい席で食べるお菓子

チョムリアップ・スオ（こんにちほ）！  
カンボジアで誰もが大好きなおやつ「ノム・アンソム・チェ」を紹介します。カンボジアのお盆（10月）やクメール正月（4月）、結婚式などおめでたい席で食べられることが多く、普段のおやつの時間にもみんなで食べることもあります。もち米とバナナ（もしくは豆）で作られ、バナナの葉で包んでいます。日本のお菓子に例えるなら「饅頭と羊羹の中間」。饅頭ほどではないですが、もち米の粒が立っているので羊羹でもない感じです。もち米の甘さとバナナの甘さがマッチしてとてもおいしいのでおすすめです。



コンポントム州コンボンスヴァイ郡ニーベック集合村のCLCで、運営委員と識字教室教員を兼任しています。

## From Laos

ラオス

1992年に開設したラオス事務所。50の民族からなるラオスの教育現場にはさまざまな課題が残ります。奮闘するスタッフと子どもたちの様子をお届けします。



市場でよく売られています。バナナの皮に包まれていて持ち運びもしやすいです。

※「ノム」はクメール語で「お菓子」という意味

## Hot Topics

### ① 都市と農村の格差

20年間における国民総所得(GNI)の年平均成長率が7.5%以上の高水準を達成し、持続的な高度成長を続けているカンボジア。しかし、生活の変化は都市部に集中し、農村部の人々はほぼ変わらない暮らしを続けています。首都プノンベンやシェムリアップなどの都市部を少し離れると、伝統的な農村風景がどこまでも広がっています。



### ② 寄付を募る祭典が開催!

2019年1月19日・20日、コンポントム州コンボンスヴァイ郡サンコー集合村のCLCにて、地域住民から寄付を募る祭典を開催。祭典は、サンコー集合村の代表者から成る運営委員会が主催し、700ドル以上の寄付金が集まりました。看板と敷地入口のゲートの建設費用、CLC運営費に充てられます。



### ③ CLC利用者の声をお届けします

「中学校のすぐ隣にCLCがあり、休み時間などによく訪れて本を読んだり、友達とおしゃべりをして過ごしています。置かれている多くの本を見るだけで、幸せな気持ちになります。新しい本が届く日が待ち遠しいです。」

(ルッソパリンさん、12歳・7年生)

カンボジア事務所 事業調整員  
川村 圭 かむむらけい

#### PROFILE

大学院修士課程を修了後、2017年5月よりシャンティミャンマー事務所インターンとして活動。2018年4月にシャンティへ入職。東京事務所事業サポート課海外事業担当として勤務した後、同年8月より現職。

※CLC=図書館活動を中心としたコミュニティラーニングセンターのこと

CLCは、みんなが気軽に訪れることができ、好きな本に触れ、自由に学び、心が満ち足りた状態で家に帰り、そしてまた行きたいと思える場所であることが重要です。2013年に開始した当事業は、2019年が最終年となりました。事業終了後も、地域住民たち自らの力で持続発展できるように、図書の調達・管理から、サービス提供や運営予算の確保など、全6館の運営基盤を強化することが課題です。



## From Cambodia

### カンボジア

2013年よりコミュニティラーニングセンター(CLIC)の運営を行ってきたカンボジア事務所。現地の様子を紹介します。



子どもも大人も自由に集う実践的な生涯学習の場へ

人生初の一人旅でミャンマーを訪れました。机も椅子もない場所ので一生懸命勉強する子どもたちに出会い、「困難な状況下で頑張る子どもたちに、快適な学習環境を与えたい」と思ったことがきっかけとなり、シャンティのインターンを経験後、入職しました。現在私は、カンボジアのコンポントム州、シェムリアップ州、バンテイミンチエイ州に計6館あるCLC※の運営能力強化の活動に従事しています。この事業では、カンボジア農村部の子どもから大人まで、すべての人が自由に集える実践的な生涯学習の拠点作りを実施。図書館活動や識字教室、識字後プログラムを利用し楽しく学べる環境が整っています。

運営基盤を強化し地域による運営を目指して

# AIRMAIL



Zzz...  
おやすみなさい!

20:00 就寝

食後に家族と団らんし、寝る前は読書をして過ごします。

私の1日を紹介します!



私が住んでいるのはこんな村



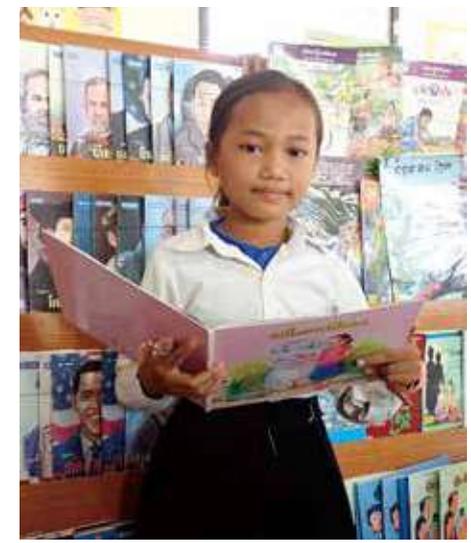
## From Cambodia / カンボジア 現地の子どもレポート

カンボジア農村部で、実際にコミュニティーリングセンター(CLC)を利用する小学生の女の子にインタビュー。現地での暮らしをレポートしてもらいました!

穀物類の農業が盛んな村です。

トモロコシや豆類、米などの栽培が盛んに行われ、村民の多くは農産物で生計を立てています。家の裏庭にある池で魚を育てたり、畑で育てた野菜を食べ、自給自足に近い生活を送っています。

## カンボジアから カエン・ナリンさん(11歳) がレポート!



将来の夢は学校の先生!

私はカンボジアのシエムリアップ州クロライン郡カンチャン・チュラウ村で、両親といとこ2人と一緒に暮らす小学5年生です。両親は稲作で生計を立てています。一緒に暮らすいとこと外で遊んだり、友達の家でおしゃべりしたり、草花を摘んで遊ぶのも好きです。たまに村の人がプロジェクトを使って小規模な映画上映会を開催することがあり、それを毎回楽しみにしています。  
将来の夢は、小学校の先生になって、住んでいる村の子どもたちに勉強を教えることです。いつか、自分が生まれ育った地域の役に立ちたいと思っています。



18:00 夕食

魚のスープが好物です!



5:00 起床

6:00 朝食

お皿を洗って、部屋の掃除をしてから朝ごはんを食べます。



8:00 昼食

いとこたちと近所を散歩したあと、家で早めの昼食をとりまします。登校時間までは家で家族と過ごします。



13:00 授業スタート

授業の合間に10分~15分間の休憩時間が2回あります。休憩時間には、シャンティが支援しているCLCによく行きます。



11:00 登校

友達と一緒に登校します。授業が始まる13:00まで学校でみんなと遊びます。



17:00 帰宅



### 私のお気に入り

「CLCにある絵本と教科書」

CLCの本の中で一番好きな本は「Where are we going?」です。クメール語の教科書には、いろいろな物語が収録されているので、学校だけでなく家に帰った後もよく読みます。

Hot Topics

①新しい事業地

複式学級運営改善事業の第2フェーズで対象とするポントン郡は、ルアンパバーン市から車で約7時間。学校によっては中心部から4～5時間かかります。へき地にこそ支援が必要のため、当地での活動に力を入れています。



1

②札幌で複式授業の研修を実施

2018年9月、ラオスの教育スポーツ省職員や教員養成校教官など8人のラオス人を招き、北海道教育大学と協力して研修を行いました。日本の複式授業の現状などに関する講義、小学校の視察、指導案の作成や模擬授業を実施。みんな熱心に新しいことを学んでいました。



3



2



4

③新たな学校建設を開始

2018年11月から2校舎の建設を開始。児童数に比べ使用できる教室数が足りず、老朽化した校舎を使用したり、約70人の児童が1教室で勉強したりしています。新校舎完成後は、児童たちがより良い環境で勉強できるようになります。

④学校での移動図書館活動

2018年から移動図書館の対象地をバクセン郡の小学校に変更。各校で、絵本の読み聞かせや、ゲームやクイズなどを取り入れ、楽しみながら学べるようにするとともに、先生方にもそのやり方を研修と実践を通して引き継いでいます。



ラオス事務所 所長  
玉利 清隆 たまりきよたか

PROFILE

20代は民間企業で勤務。海外青年協力隊、他のNGO、JICAでの勤務を経て2014年3月に入職。カンボジア事務所の所長を経て、2018年5月より現職。

ラオスの公式民族数は50。事業地へ向かう車窓からは様々な民族の家や生活が見られます。この数年で経済成長が進み、教育環境も改善されつつありますが、地域や民族によって差が出ています。教育スポーツ省の発表で、教育状況が良くない層に「貧困層・少数民族・遠隔地の住民」の三者が強調されており、多くは同じ人々です。このような、取り残されがちな子どもたちへの支援を継続して行っていきたくと考えています。



From  
Laos

ラオス

1992年の事務所設置以来、学校建設や絵本版・配布など広く教育活動を行ってきたラオス事務所。現在の支援状況についてお届けします。



さまざまな意見が飛び交い  
驚きや学びのある現場

約27年間のラオスでの支援事業の中で、特徴的なのが謄写版の配布です。すべての小学校8000校以上に配布したことで、黒板や教科書などがほとんどなかった当時の学校で貴重な資料となりました。これまでにラオス事務所では、学校建設、複式事業運営改善事業、移動図書館活動、絵本版・再販を行ってきました。活動を行う上で、みんなで協力しながら物事を作り上げていく過程はとても面白く、事務所内では年齢や肩書きに関係なく自由に意見を言い合える雰囲気があります。さまざまな意見が飛び交い、日本人と異なるラオス人の考え方を耳にすることで、さまざまな驚きや学びがあります。

取り残されがちな子どもたちへ  
良質な教育環境を

# AIRMAIL

私の1日を  
紹介します!

おやすみなさい! / Zzz...

20:45 就寝



19:30 夕食

得意料理は野菜炒めです。夜ご飯の後は、食器を洗うのが私の係です。食後は、歯を磨き、お父さんと学校の友達のことを話したり、パーピー人形を遊びます。



16:00 自由時間

家に帰ったら、友達と遊んだり、宿題や読書、部屋の掃除や夜ご飯の準備をします。



1日がスタート!

6:00 起床

顔を洗い、お父さんと一緒に朝食を作ります。

6:30 朝食

卵焼き、焼き魚が私の大好きな朝ごはんです。



7:15 登校

早めに学校へ行き、友達と教室の掃除をするのが日課です。



8:00 授業

将来先生になるために、勉強を頑張っています。



12:00 昼食

家に帰り、お父さんとごはんを食べます。

私が住んでいるのはこんな村 /



Laos  
ラオス

おすすめはナイトマーケット!

ルアンパバーンのナイトマーケットには独自の柄の刺繍が入った民族衣装や布製品、雑貨が並びます。屋台では、ラオス北部名物のカオソイだけでなく、パパイヤサラダ、カオピヤックなどおいしいごはんが売られ、安く食べることができるのも見どころです。

3人兄弟の長女で妹1人と弟1人がいますが、小さいころに両親が離婚し、今は大学の先生をしているお父さんと2人暮らします。お母さんと妹や弟が元気で生活できるようにお祈りをするため、お父さんとお寺によく行きます。お父さんは小さいころから私に理科のおもしろい話をしてくれて、勉強することが大好きになりました。将来は、お父さんみたいな先生になるのが夢です。私は、スポーツが一番好きで、特にバドミントンとサッカーが大好き。だから、将来は体育の先生になって、子どもたちに勉強することのおもしろさと運動することの大切さを楽しく教えたいです。

From Laos / ラオス

## 現地の子どもレポート

レポートするのは、事務所のあるラオス北部の「ルアンパバーン」に暮らす小学生の女の子。街の様子や将来の夢、毎日の過ごし方について紹介します。

ラオスから  
トゥーチアさん(9歳)  
がレポート!



体育の先生になるのが夢!

### 私のお気に入り



「クワンシーの滝」

大好きな場所はクワンシーの滝です。メコン川の支流のひとつで、滝壺はきれいな緑色です。水がきれいなので、暑い日にそこで友達やお父さんと泳ぐことが好きです。



## 識字教室 ひまわりの会

井口 幸治

1995年に発災した阪神淡路大震災。シャンティにとって初めての大规模な国内災害への取り組みで、すべてが手探りでした。大きな災害ほど、日常的に内在している課題が浮き彫りになります。そのひとつが、高齢者の多い市営住宅の巡回活動で出会った、在日朝鮮人の高齢の女性たちが抱えている非識字の課題でした。夜間中学校の教諭だった桂光子さんと出会い、神戸事務所スタッフだった藤井隆英さんを派遣し、1996年に識字学級「ひまわりの会」がスタート。現在は、地元ポランティアを中心に、23年間活動を続けられています。現在の様子を井口さんに伺いました。

阪神淡路大震災の直後、藤井隆英さん（以下、隆英さん）の所属していたシャンティはいち早く救援活動を開始。その見回り活動の中で、字が読めない、書けないために公的支援が届かない被災者と出会いました。隆英さんは「現

代日本にこんな状況があるとは思ってもみなかった」と当時を回顧しています。

その方々は神戸市立丸山中学校西野分校の生徒でもありました。西野分校は現存する中で最も古い夜間中学校の一つです。その方々を介して、当時、西野分校教諭として定年を迎えようとしていた桂光子さんと出会うことになりました。

みんなの居場所を作りたいたい、卒業後も学ぶ場所が欲しいという二つの願いからひまわりの会は誕生しました。

□□ミで広がり、1年後には学習者も支援者も急増し、場所が確保できなくなるほどでした。毎週事務所から会場まで、プリントや辞書、文具等を瓦礫が残る街を通り、隆英さんの運転する軽トラで運んでいました。

マンツーマンの学習から、グループ学習に変わり、場所もプレハブの文化会館から公

民館へ移ったりする変化はありながら、ひまわりの会は多くの人々の出会いと成長の場となり、多くの種を、それぞれの人生に、さまざまな地域に蒔いてきました。

現在は、事務所の運営が困難になって手放し、学習者もスタッフも高齢化が進んで、人数も少なくなりました。4年前から、社会人、神戸大学、親和女子大学の三つのグループで持ち回りの一斉学習をしています。形は変われど若い学生と高齢の学習者がともに学び合う中で毎回毎回、大切な何かの種がまかれていくと思えます。

「ひまわりに来ると元気をもらえる」。これは学習者も支援者も同じ思いです。文字を覚えて、新聞が読めるようになった、区役所に行くのが怖くなくなった、とおっしゃる方もたくさんいらっしゃいます。ある学習者の方の作文にこんな一節があります。

（学んで）「やっとなが開けて、私も言いたいこと言ってええんや、と本音で、自分の言葉で言えるようになりました。文字を覚えたことも嬉しいですが、そのことが、何より嬉しいです。」

識字は単に文字を覚えるというだけではありません。文字を覚えることは、新しい人生を歩むことであり、学ぶことは生きることです。学ぶ人の美しさは、人間の前向きに生きる美しさなのではないかと思うことがあります。

二十三年歩み続けてきましたが、識字を中心に据えつつ、人と人が出会う場、元気になる場であることは当初のままです。今後、この歩みは変わらず、一人でも必要としている人がいるかぎり、できる形で続いていくだろう、また続けていきたいと思っています。



## シャンティからのお知らせ

### 「絵本を届ける運動」が20周年

日本で出版された絵本に、現地語の翻訳シールを貼り、子どもたちが母語で読める環境を届けている「絵本を届ける運動」は、2019年に20周年を迎えました。本を知らないアジアの子どものため、これまでに日本国内で10万人を超える個人と、100社以上の企業のみならず参加いただき、29万冊を超える絵本を届けてきました。

2018年中に集まった絵本のうち、16,713冊が2月13日に東京事務所を出発しました。絵本は読み書きを習得する助けになり、危険なことを回避し、命を守ることもつながっています。2019年は、1万8千冊を目標に受付を行っております。



#### 【変更点】

これまで参加費は、絵本セットが届いてからの後払いでしたが、2019年5月1日より「前払い」に変更させていただきます。

### 東日本大震災復興支援事業の機能を東京事務所に統合

2018年12月末をもって南相馬事務所の機能を東京事務所へ統合いたしました。東日本大震災の発生後、気仙沼市、陸前高田市、亶理郡山元町、南相馬市に事務所を開設し、支援活動に取り組んできましたが、東北3県に開設した事務所はすべて閉所いたしました。



### 人事のお知らせ

#### ●退職

政岡史織 事業サポート課 (12月31日付)

### 編集後記

4月に2歳の誕生日を迎える息子は「きかんしゃトーマス」が大好きです。トーマスの仲間たち(=機関車など)がたくさん登場するので、キャラクター図鑑での予習と復習が欠かせません。そんなトーマスは国連と協力し、「持続可能な開発目標(SDGs)」に関連したエピソードを放送していくそうです。今後、世界が抱える課題について伝える番組が増えていくかもしれませんね。(召田安宏)

シャンティ 2019年春号(通巻299号) | 2019年4月1日発行

発行人: 若林恭英

発行所: 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会  
〒160-0015東京都新宿区大塚町31 慈母会館2・3階  
TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220  
WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp

編集人: 関尚士、鈴木晶子

編集・制作: 株式会社文化工房

イラスト: きよはらえみこ

印刷: 株式会社サンエー印刷

当会へのご寄付は、所得税、住民税、および法人税、相続税の優遇措置が受けられます。  
©Shanti Volunteer Association.  
「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。



川畑 嘉文(フォトジャーナリスト)

Yoshifumi KAWABATA

ニューヨークの雑誌社勤務時代に9.11を経験し、記者職を捨てて写真の道に進むことを決意。2002年、会社を退職しタリバン政権崩壊後のアフガニスタンを訪れ取材を行った。2005年フリーランスのフォトジャーナリストとなり、世界中の難民キャンプや貧困地域、自然災害の被災地で取材を行い、雑誌や新聞などに写真と原稿を寄稿している。



撮影地:  
ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプの1カ所  
ヌボ難民キャンプ (2018年11月)



上:どれもがとても辛い。小さくて黒い塊がたぬぎ。  
下:ヌボキャンプ内の朝市では魚や肉、野菜も売られていた。

「この肉はラクーンだよ。」  
ミャンマー(ビルマ) 難民キャンプでの食事時、シャンティの現地スタッフが教えてくれました。  
「ラクーン? ラクーン(礁湖)って食べられるの?」とわたし。  
「そうじゃなくて、ラクーン(たぬぎ)だよ。」  
海外取材をしていると、予想外のジビエ料理に出会うことがあります。これまでアヒルやダチョウなどはご相伴にあずかったことがありますが、たぬぎは初めて。タイに生息しているのかどうかは不明ですが、ジャングルで捕まえたそうです。  
皿に盛られた姿は大きな焼き鳥の皮みたい。食感は歯ごたえがあり噛み切るのが大変。味はというと、野生臭さが残っていて少々癖がある。ご飯のおかずよりビールつまみに最適かも。貴重な食材をご馳走様でした。

難民キャンプの変わったごはん

